薬の伝言板

薬と食品・嗜好品の相互作用

No.321 2024年8月 丸子中央病院 薬局

薬と食品・嗜好品(健康食品を含む)には相互作用(飲み合わせの悪いもの)があります。薬を服用した後、食品・嗜好品が薬の効果に影響を及ぼし、薬の効果を強めて副作用が起こりやすくなったり、薬の効果を弱めることで、健康を害する可能性があるものが存在します。

【薬と食品・嗜好品の代表的な相互作用(飲み合わせ)】

Ⅰ. 薬の効果(副作用)を強めてしまう食品

食品•嗜好品

グレープフルーツ

- ・摂取後、3~4日間は相互作用の効果あり→同時に摂取しなければ良いというわけではない!
- グレープフルーツ以外の柑橘系にも注意 【相互作用あり】

夏ミカン、ダイダイ、サワーオレンジ、ザボン、ハッサク、絹皮、スウィーティー、 ライム等

【相互作用なし】

温州みかん、カボス、バレンシアオレンジ、ネーブル、日向夏、レモン、ゆず等

アルコール

- ・基本的に薬とアルコール(お酒)を一緒 に飲むことは避ける
- ・右記はアルコールとの同時摂取が特に問題となる薬剤

相互作用のある医薬品例

- ・降圧薬(アムロジピン、ニフェジピン シルニジピン等)
- 利尿薬(トルバプタン) 抗てんかん薬(カルバマゼピン)
- 睡眠薬(トリアゾラム等)
- 抗血小板薬(シロスタゾール)
- ・脂質異常症治療薬(アトルバスタチン、 シンバスタチン)
- 抗アレルギー薬(ルパタジン)



- 解熱鎮痛薬(アスピリン、アセトアミノ フェン等)
- 睡眠薬(トリアゾラム、ブロチゾラム)
- 糖尿病薬(メトホルミン、ブホルミン、 ビルダグリプチン、シタグリプチン、ア ログリプチン、サキサグリプチン、ナテ グリニド、レパグリニド等)
- ・抗凝固薬(ワルファリン)
- ・降圧利尿薬(ヒドロクロロチアジド、トリクロルメチアジド、インダパミド)
- 抗うつ薬(アミトリプチン、ミアンセリン、エスシタロプラム、セルトラリン、パロキセチン、デュロキセチン等)

Ⅱ. 薬の効果を弱めてしまう食品

納豆、クロレラ、青汁

- ワルファリンはビタミンK依存性に血液が固まるのを抑えるため、ビタミンKを 大量に含む納豆、クロレラ、青汁はワルファリンの効果を弱めてしまう
- ・緑黄色野菜は通常の食事摂取量であれば 問題なし

乳製品(牛乳、ヨーグルト等)

・薬の成分が乳製品のカルシウムとくっつ いて薬の吸収を抑え、効果が低下する

サプリメント(セントジョーンズワ ート)

• 薬の代謝を誘導することで効果を弱める



タバコ

薬の代謝を誘導することで効果を弱める



・ワルファリン



※ワルファリン以外の抗凝固薬(リバーロキサバン、エドキサバン等)を服用中の場合は摂取しても問題なし

抗菌薬(レボフロキサシン、ミノサイク リン等)

- 抗てんかん薬(フェニトイン、カルバマゼピン)
- 抗凝固薬(リバーロキサバン、ワルファリン等)
- 抗ウイルス薬(アメナメビル、エンシト レルビル等)
- 利尿薬(エプレレノン)
- 抗うつ薬(セルトラリン、デュロキセチン等)
- ・免疫抑制薬(シクロスポリン等)

その他、多数あり

- 気管支拡張薬(テオフィリン)
- ・筋弛緩薬(チザニジン)
- ・抗精神病薬(オランザピン)
- 低用量ピル など



上記で紹介した薬と食品・嗜好品の相互作用は一部であり、他 にも様々な組み合わせが存在します。ご自身の服用薬について 不明な点があれば、薬剤師にお問い合わせください。

文責 薬局 宮川・羽毛田